

幼児教育におけるメディア

田 中 洋 一

(2011年1月31日受理)

Media and Early Childhood Education

Yoichi, TANAKA

(2011年1月31日受理)

key words

幼児教育 (early childhood education)、メディア (media)、視聴覚教育 (audiovisual education)

1. はじめに

「平成23年度福井県視聴覚教育研究大会（奥越大会）幼稚園・保育園の部」の助言者として、2010～2011年度に活動したこと、調査したことをもとにして、幼児教育におけるメディアの活用に関して考察する。視聴覚教育とは、広辞苑によると、「視覚や聴覚に訴える教具によって行う教育。掛図・標本・テープ・レコーダー・ラジオ・OHP・映画・テレビ・ビデオ・コンピューターなどを用いる教育のほか、展示・演劇・見学等による教育を含む。」と定義されている。つまり、ほとんどの保育活動が含まれる。

内閣の高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部（IT戦略本部）が2006年に策定した「IT新改革戦略」に掲げた教育の情報化の目標にもとづき、学校におけるICT環境の整備、教員のICT活用指導力の向上が進められたが、幼稚園は除外されており、小・中学校の状況とは異なる（田中）。まず、幼稚園におけるICT環境は、どのような状況であろうか。文部科学省が委託した「学校及び社会教育施設における情報通信機器・視聴覚教育設備等の状況調査（文部科学省）」によると、幼稚園における保有率は表1となる。公立幼稚園の約10%である499園に調査票を配布し、有効回答

表1. 幼稚園における情報通信機器・視聴覚教育設備等の保有率（単位：％）

	2010年度	2007年度
オーバーヘッドプロジェクター	48.87	—
教材提示装置	12.54	18.23
テレビ受像機	47.91	94.27
地上デジタル対応テレビ	78.78	2.86
CS放送受信システム	4.50	0.78
BS放送受信システム	8.68	4.95
ビデオプロジェクター	38.26	31.77
大型ディスプレイ	1.61	1.82
電子黒板	0.96	0.78
ビデオカメラ	38.59	57.55
デジタルカメラ	95.18	86.46
デジタルビデオカメラ	18.65	—
ビデオテープレコーダ	74.28	86.72
DVDプレーヤ	53.70	33.33
DVDレコーダ	26.69	16.41
CDプレーヤ	90.35	—
MDレコーダ	45.66	—
コンピュータ	91.64	—
校内テレビ放送施設	7.07	9.90
携帯情報端末	1.61	—
回答数(実数)	311	384

票数は311園であり、調査日時は2011年2月15日～3月11日（「2011年1月1日」時点を調査対象時点とする）である。表は2007年度に行った前回調査結果と比較してあるが、前回無かった項目は「—」と記してある。幼稚園において保有率の高い機器は、デジタルカメラ（95.18%）、コンピュータ

(91.64%)、CDプレーヤ (90.35%) の3つである。コンピュータの保有率は、小学校で99.85%、中学校で99.50%、高等学校で99.39%と、学校全体では最も高くなっている。2007年度より2010年度の保有率が下がっている項目は、アナログ機器からデジタル機器に変わっていると考えられる。たとえば、ビデオテープレコーダが下がり、DVDレコーダが上がっている。

同調査によると、保有台数は表2となる。幼稚園において保有台数の多い機器は、CDプレーヤ (3.57台)、コンピュータ (2.96台) となる。コンピュータの保有台数は、小学校で51.47台、中学校で60.09台、高等学校で147.98台と、学校全体では最も高くなっている。小・中学校及び高等学校では、情報の教科があり、児童・生徒がパソコンを利用するため、台数が多い。それに対して、幼稚園で幼児にパソコンを利用させる園は少なく、事務 (文書作成等) での利用が多い。

表2. 幼稚園における情報通信機器・視聴覚教育設備等の保有台数 (単位: 台)

	2010年度	2007年度
オーバーヘッドプロジェクター	0.57	-
教材提示装置	0.14	0.34
テレビ受像機	1.36	3.77
地上デジタル対応テレビ	1.75	0.04
CS放送受信システム	0.06	0.01
BS放送受信システム	0.14	0.06
ビデオプロジェクター	0.43	0.41
大型ディスプレイ	0.02	0.02
電子黒板	0.02	0.02
ビデオカメラ	0.40	0.63
デジタルカメラ	1.82	1.49
デジタルビデオカメラ	0.21	-
ビデオテープレコーダ	1.58	2.39
DVDプレーヤ	0.86	0.46
DVDレコーダ	0.38	0.21
CDプレーヤ	3.57	-
MDレコーダ	0.89	-
コンピュータ	2.96	-
校内テレビ放送施設	0.35	0.13
携帯情報端末	0.04	-
回答数(実数)	311	384

同調査によると、幼稚園における活用頻度は表3となる。CDプレーヤの活用頻度が最も高く、「ほぼ毎日」利用する園が65.71%、「週に数回程度」利用する園が22.86%である。お片づけやリズム

表3. 幼稚園における授業用情報通信機器・視聴覚教育設備等の活用頻度 (単位: %)

	ほぼ毎日	週に数回	月に数回	ほとんど使わない
オーバーヘッドプロジェクター	0.00	1.34	16.78	81.88
教材提示装置	0.00	2.63	13.16	84.21
テレビ受像機	5.04	4.32	23.02	67.63
地上デジタル対応テレビ	5.58	9.01	41.20	44.21
CS放送受信システム	6.67	0.00	13.33	80.00
BS放送受信システム	0.00	0.00	11.11	88.89
ビデオプロジェクター	1.85	0.93	43.52	53.70
大型ディスプレイ	0.00	0.00	42.86	57.14
電子黒板	0.00	0.00	0.00	100.00
ビデオカメラ	0.92	2.75	23.85	72.48
デジタルカメラ	38.97	34.19	15.07	11.76
デジタルビデオカメラ	1.75	8.77	36.84	52.63
ビデオテープレコーダ	4.98	9.05	35.75	50.23
DVDプレーヤ	9.70	12.73	43.03	34.55
DVDレコーダ	5.00	16.25	46.25	32.50
CDプレーヤ	65.71	22.86	8.57	2.86
MDレコーダ	33.57	22.86	17.86	25.71
コンピュータ	47.48	2.52	2.52	47.48
校内テレビ放送施設	33.33	9.52	19.05	38.10
携帯情報端末	0.00	0.00	25.00	75.00

体操等、いろいろな活動時に音楽を流すためであろう。次に、「ほぼ毎日」利用する園が多い項目は、コンピュータで47.48%であるが、「ほとんど使わない」園も47.48%であり、両極端な結果となった。幼児の活動記録や園だより等を手書きで作成するかコンピュータで作成するか、連絡を電話や手紙で伝えるか電子メールで伝えるか等、園により2極化している。その次に活用頻度が多い項目はデジタルカメラで「ほぼ毎日」利用する園が38.97%、「週に数回程度」利用する園が34.19%となっている。幼児の活動を記録するときや教材を作成するとき等、いろいろな場面で利用するのであろう。MDレコーダも、CDプレーヤと同様に音楽を流す利用方法が多いと思われる。

2. 幼児のメディア調査

2.1 ベネッセの調査

「親と子のメディア研究会」は、ベネッセ教育研究開発センターとの共同研究として、2005年1

月、0～6歳までの就学前の幼児を持つ保護者を対象としたWebアンケート「乳幼児のメディア調査」を行った（親と子のメディア研究会）。サンプル数は、0歳：570、1歳：533、2歳：437、3歳：404、4歳：363、5歳：357、6歳：338、トータル3002（有効回収率10.7%）である。

(1) テレビ・ビデオを見せる目的は？

全年齢共通しての1位は、「家事などで手が離せないときの子守のため」である。この項目を選択したのは、2歳代の場合、テレビが84.7%、ビデオが73%、6歳代の場合、テレビが72.2%、ビデオが63%と、いずれも高い割合となっている。2歳代の場合、視聴理由の2位は「歌と踊りをさせるため」（テレビ：50.3%、ビデオ：44.6%）、3位は「言葉や知識を豊富にするため」（テレビ：30.9%、43.2%）である。6歳代の場合、視聴理由の2位は「言葉や知識を豊富にするため」（テレビ：33.4%、34.6%）である。「言葉や知識を豊富にするため」には、2歳代でも6歳代でも、テレビよりもビデオを活用している。

(2) テレビ・ビデオの視聴ルールは？

家庭における視聴ルールは、2歳頃に決まるものが多いようだ。視聴ルールの1位は「距離を離して見せる」の62.6%、2位は「テレビ番組の内容は確認している」の49.3%、3位は「ビデオの内容は確認している」の46.8%、4位は「見るテレビ番組を決めている」の46.5%である。

(3) 番組を一緒に見るときの母親の様子は？

- ① あまり話をしないで黙って見るタイプ
- ② 子どもと一緒に体を動かして見るタイプ
- ③ 子どもと話をしながら見るタイプ
- ④ 他のことをしながら、離れた空間で見ているタイプ
- ⑤ 一緒に見ないタイプ
- ⑥ その他
- ⑦ 無回答

0～1歳代では、「②子どもと一緒に体を動かす」タイプが最も多く、次が「③子どもと話をしながら見る」タイプである。（図1）

2歳代は、3つの視聴タイプ（④、③、②）が混在している。（図2）

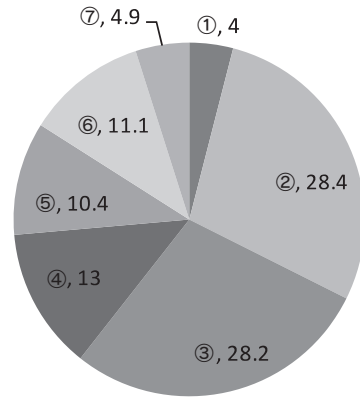


図1. 0歳代 (単位：%)

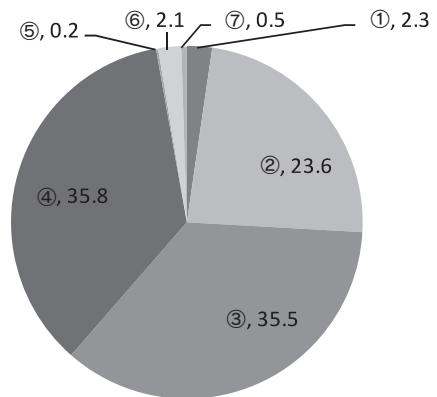


図2. 2歳代 (単位：%)

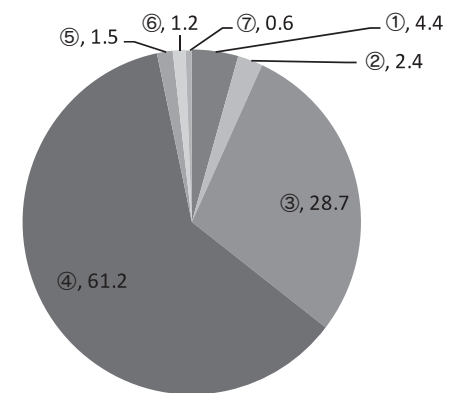


図3. 6歳代 (単位：%)

3～6歳代は、年齢と共に「④他のことをしながら、離れた空間で見ている」タイプが徐々に増加する。(図3)

2.2 勝山中部幼稚園の調査

2011年10月、勝山市立勝山中部幼稚園の保護者を対象として、メディアに関するアンケート調査を行った。有効回答数は、3歳児：7、4歳児：10、5歳児：13、合わせて30である。

子どもとテレビ・ビデオを見ている時、一緒に話をしますか？

「よく話す」、「話している」、「あまり話さない」、「全く話さない」の4件法の結果、「よく話す」「話している」合わせて、約60%の保護者が一緒に話をしながら見ている(図4)。また、「全く話さない」保護者は0%であった。2011年1月24日、勝山中部幼稚園の保護者向けに行った読み聞かせセミナーでも説明したが、メディアを介してコミュニケーション(声掛け等)をとることが重要である。

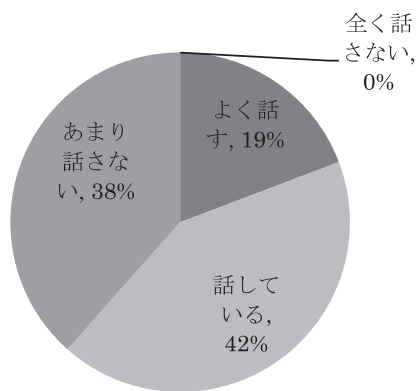


図4. 番組視聴時の会話の有無

3. 幼稚園における放送番組の活用

3.1 NHKの調査

NHKは、2010年9月1日～11月30日、郵送法で「NHK学校放送利用状況調査」を行った(NHK放送文化研究所)。幼稚園のサンプル(抽出比1/12)数1092のうち、有効回答は66.1%の722園である。この調査における「NHK幼児向け番組」とは、幼稚園教育要領・保育所保育指針にもとづいて制作された「幼稚園・保育所向け番組」と、本来は

家庭視聴向けだが幼稚園・保育所での利用も想定している番組(『おかあさんといっしょ』『いないいない ばあっ!』)を合わせたものである(表4)。

表4. 番組別の幼稚園利用率(単位:%)

番組名	2010年度	2008年度
こどもにんぎょう劇場	13.2	14.1
つくってあそぼ	15.4	15.2
ピタゴラスイッチ	13.0	12.5
しぜんとあそぼ	12.5	10.7
いない いらない ばあっ!	4.8	4.7
おかあさんといっしょ	10.0	10.0
みいつけた!	4.6	-

『つくってあそぼ』『こどもにんぎょう劇場』『ピタゴラスイッチ』『しぜんとあそぼ』の利用率が10%を超えている。利用する理由として、4番組すべてに対して「幼児の興味・関心を引き出しやすい番組である」と60%以上の幼稚園が回答している。また、「幼稚園の保育活動で取り上げたい内容が多い」という意見は、『つくってあそぼ』が60.4%、『しぜんとあそぼ』が44.4%と高い。勝山中部幼稚園においても、『つくってあそぼ』の視聴から、いろいろなごっこ遊びへの発展がみられた。

表5によると、NHKテレビ番組を利用している幼稚園は、2008年度が26.1%に対して2010年度が24.9%とほぼ横ばいであるが、1990年代以降、漸減傾向が続いている。

表5. NHK幼児向け番組利用率(単位:%)

	2010年度	2008年度
テレビ	24.9	26.1
ラジオ	3.0	1.8

ただし、表4のNHK幼児向け番組以外にも、幼稚園では『にほんごであそぼ』『アニメ・おじゃる丸』『えいごであそぼ』『みんなのうた』等の番組も利用されている。何らかのNHKテレビ番組を利用している幼稚園は、2010年度が26.7%、2008年度が30.8%である。

3.2 勝山中部幼稚園の調査

2.2で説明した勝山中部幼稚園の保護者を対象としたメディアに関するアンケートにおいて、「幼

幼稚園で子どもにテレビやビデオを見せることをどう思いますか？」という調査を行った。その結果は、「問題なし・好ましい」が65%、「あまり見せたくない」が23%、「わからない」が12%であった(図5)。「あまり見せたくない」理由として、「園でしか得られない経験をして欲しい」、「家も含めると長時間や毎日の視聴となり、習慣化するのが心配」、「友だちとの関わりや身体を動かすことを優先して欲しい」、「園では他に学ぶべき事が多い」等の意見があった。「問題なし・好ましい」理由として、「教材としての利用は問題がない」、「家と園でのチョイスは違うから」、「みんなで見ることで、自分が興味を示さないものを楽しめればよい」、「物事や関心のきっかけ作りにはよい」等の意見があった。

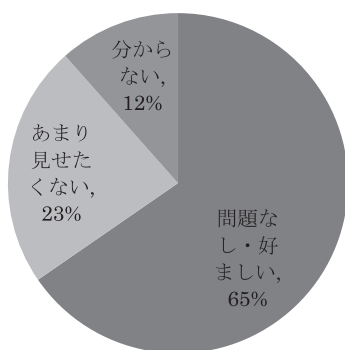


図5. 幼稚園での番組視聴

2011年12月16日、勝山中部幼稚園の保護者向けに行った読み聞かせセミナーにて、幼稚園で放送番組を用いる場合の目的と配慮を説明した上で、クリッカーを用いて、「幼稚園で子どもにテレビやビデオを見せることをどう思いますか？」と尋ねたところ、「問題なし・好ましい」が100%であった。そこで説明したように、園と家庭が連携してメディアとの関わり方を考えることが重要である。そのためにも、園の取り組み、おすすめのメディア活用法を保護者へ紹介する必要がある。

4. 勝山中部幼稚園における視聴覚教育

(1) 研究主題

勝山市立勝山中部幼稚園は、「平成23年度福井

県視聴覚教育研究大会（奥越大会）幼稚園・保育園の部」の担当園として、2010～2011年度、独自の視聴覚教育に取り組んだ。「よく見て、よく聞いて、よく考えて、よく遊ぶ子」を研究主題とし、視聴覚教材・機器を有効的に活用することで、どのような効果が得られるかを探っていくものである。勝山中部幼稚園が定義する「よく見る」とは、「発見する・観察する・感じる」ことである。「よく聞く」とは、「話を注意して聞く・聞いて理解する・最後まで聞く・感じる」ことである。「よく考える」とは、「イメージを豊かにする・考えを伝え合う・見通しをもつ」ことである。「よく遊ぶ」とは、「集中する・かかわりながら遊ぶ・表現する・工夫する」ことである。

(2) 研究のねらい

研究主題を実現するため、下記2つを「研究のねらい」と定めた。

- ① 自然体験活動や日々の実体験をもとに、視聴覚教材を有効的に使い、幼児の好奇心、興味、意欲を高める。
- ② 活動内容に応じた教材や機器を活用し、教師が幼児理解を深めることや保育の振り返りを行うことにより、保育技術の向上を図る。

(3) 研究方法

研究副題でもある「視聴覚機器（ICT）教材の有効的な活用を通して」を研究方法と位置付け、「研究のねらい」の①、②に対する具体的方法として、「①子どもに対するICT教材作り・活用」、「②ICTを活用した保育技術の向上」を進める。特に、①の具体的な重点項目として「(a) 幼児番組の活用」「(b) 絵本や紙芝居等、読み聞かせの充実」「(c) 基本的生活習慣の改善（意識付け）」「(d) 体験活動の充実」、②の具体的な重点項目として「(e) 保育の振り返り」を掲げた。

(4) 研究成果

- (a) 幼児番組の視聴により、体験しにくいことの疑似体験が可能となり、多くのごっこ遊びに発展した。また、制作に対する幼児の主体的な気持ちや作り上げる達成感が得られた。

- (b) 動画絵本・影絵・スクリーンによるクイズ等により、幼児の意欲的な活動が促進された。
- (c) 園生活のルールや活動の手順を構造化・視覚化したことにより、見通しのある活動が可能となった。
- (d) 園外活動を撮影した動画を次の活動の導入に使用し、遊びを広げることができた。
- (e) 動画として撮影した子どもの活動や教師の保育を視聴・振り返ることにより、保育および幼児理解の向上につなげられた。

「保育における振り返り」としては、(i) 手書きの保育ノート及びビデオ録画として記録すること、(ii) それらを見直して振り返ること、(iii) 振り返りによる子どもや保育者の変化を記録すること、の3点が大切である。平成23年度福井県視聴覚教育研究大会当日、「ビデオを用いた保育の振り返りをしていますか?」とクリッカーを用いた調査を行ったところ、25%の参加者が「振り返りを行っている」、75%の参加者が「振り返りを行っていない」と回答した。

5. さいごに

視聴覚教育とは、放送番組やコンピュータの利用に限らず、絵本・素話等のメディア利用も含んだものであり、幼児の活動に効果的なメディアを選択すべきである。また、幼児に対する教材作成や提示におけるメディアの利用に限らず、保育者の振り返りにおけるメディアの利用も重要である。

引用文献

- 1) 文部科学省2011『学校及び社会教育施設における 情報通信機器・視聴覚教育設備等の状況調査 報告書 平成22年度実施調査』
- 2) NHK放送文化研究所2011『進展する教室のデジタル化と教育利用のこれから ～ 2010年度NHK学校放送利用状況調査から～』
http://www.nhk.or.jp/bunken/summary/research/report/2011_06/20110606.pdf
(2012年1月31日閲覧)
- 3) 親と子のメディア研究会2005『乳幼児のメディア調査』
<http://www.benesse.co.jp/jisedaiken/media/enquete/enquete01/index.shtml>
(2012年1月31日閲覧)
- 4) 田中洋一2009,『幼児教育におけるICT活用力について』, 仁愛女子短期大学研究紀要Vol.41